

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は幼少期に急性白血病を罹患したことがきっかけで小児がん診療医になることを志しました。現在の治療法では助からない命があるため、新たながん治療の開発を目指して臨床診療と並行して基礎研究を行うようになりました。また、過去の闘病経験を活かし、この数年は小児がん経験者(CCS)の晩期合併症フォローアップとその臨床研究を行っています。

2. 助成研究の内容紹介

CCS は過去の抗がん剤治療や放射線治療の影響で、新たにがんを発症するリスクがあります。その上、CCS の約 10 人に 1 人は、がんになりやすい遺伝子を持っていることが最近の研究で明らかとなりました。本研究は CCS を対象にがん素因遺伝子の有無を網羅的に解析するものです。

3. 2 の将来に繋がる結果予想・目標

がん素因遺伝子を持つ CCS にはより入念ながんスクリーニング検査を計画することで、新たながんを早期発見し、命を救える機会が増える可能性があります。

4. 全国の RFL 関係者に一言

大切な助成金を頂いたことを常に心に留め、がん患者さんやがん経験者さんのために研究に邁進いたします。